

秋田県公立高等学校入学者選抜制度に係る調査結果について

(1) 調査の概要

① 調査の目的

現行の高等学校入学者選抜について、実施状況を踏まえた評価を行い、その課題と改善の方向性についての意見を集約し、入学者選抜に係る検討の参考とする。

② 調査対象校数

- ・公立高等学校 47校 (回答数 47校)
- ・公立中学校 110校 (回答数 106校)
- ・公立義務教育学校 1校 (回答数 1校)

③ 実施時期

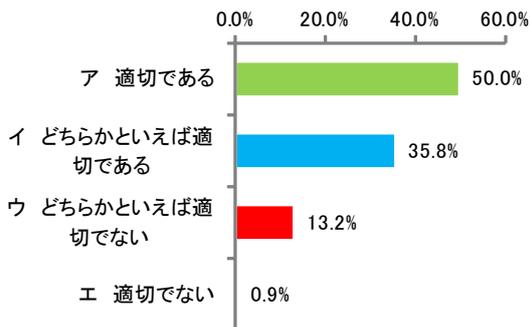
平成31年4月

④ 調査内容

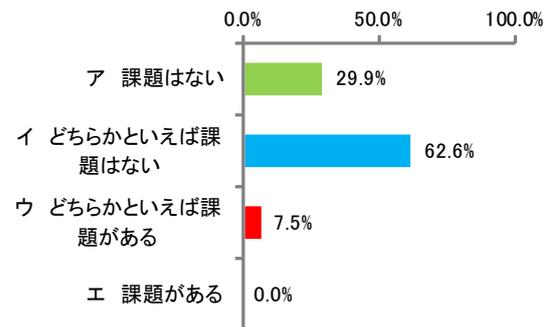
秋田県公立高等学校入学者選抜制度に係るアンケート

(2) 中学校へのアンケート結果

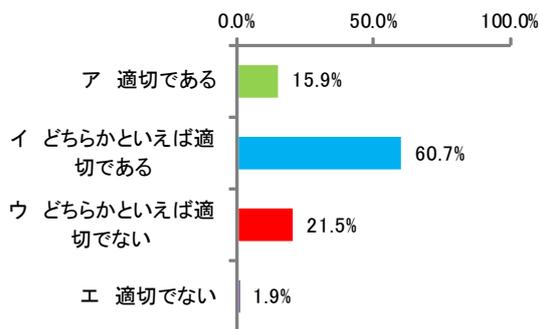
Q1 現行の高等学校入学者選抜制度(前期選抜・一般選抜・2次募集)の検査実施日の設定は、適切であるか。



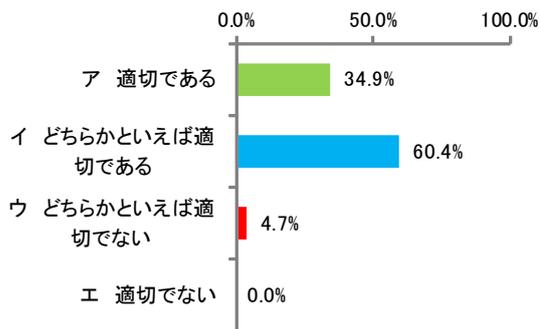
Q2 現行の高等学校入学者選抜制度(前期選抜・一般選抜・2次募集)は、生徒の主体的な進路選択に役立っているか。



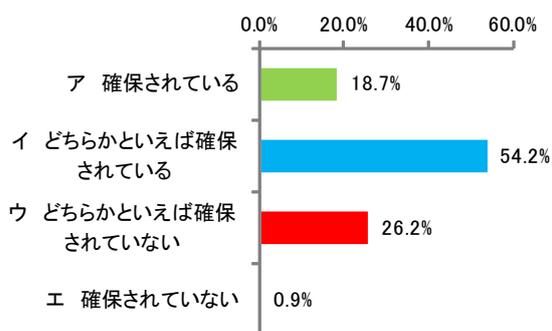
Q3 高等学校入学者選抜に係る業務全般について。



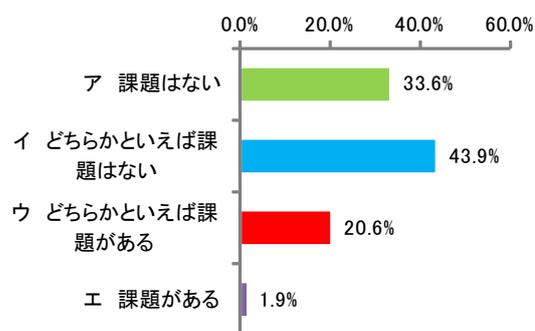
Q4 前期選抜の募集人員は、募集定員の10%~30%の範囲で各高校が定めていることについて。



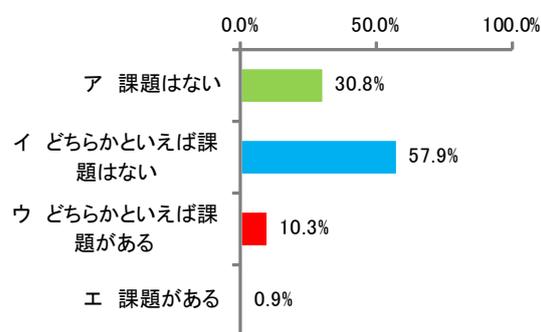
Q5 現行の前期選抜は、透明性・客観性が確保されているか。



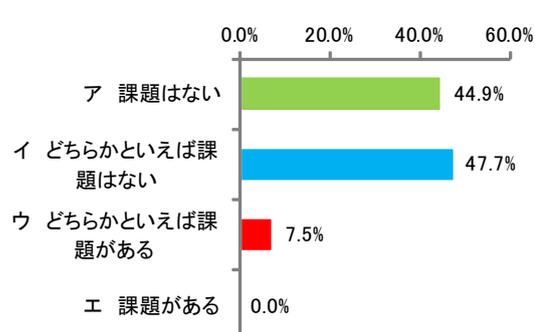
Q6 現行の前期選抜の「出願書類(様式)」や「出願手続き」について。



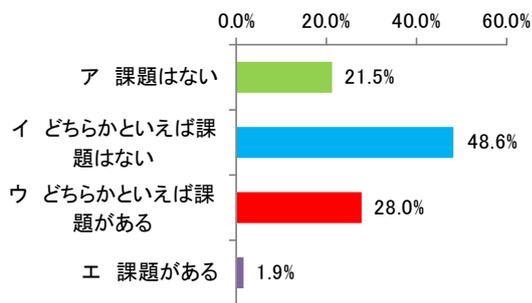
Q7 現行の前期選抜における「学力検査」又は「口頭試問」について。



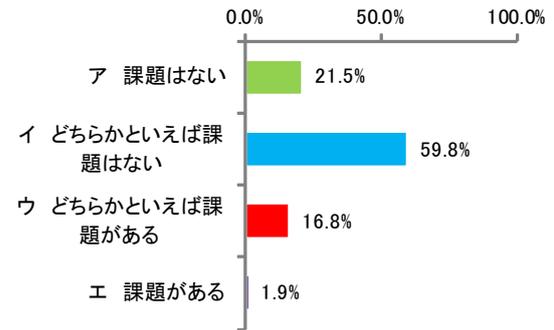
Q8 現行の前期選抜における面接について。



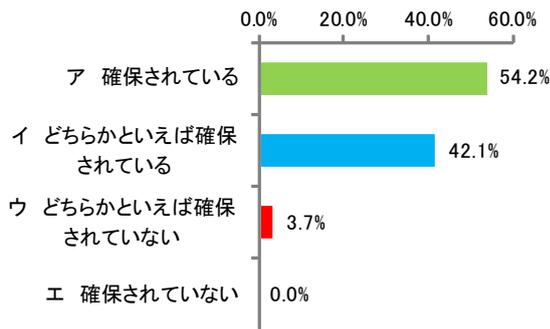
Q9 前期選抜を志願する生徒の指導について。



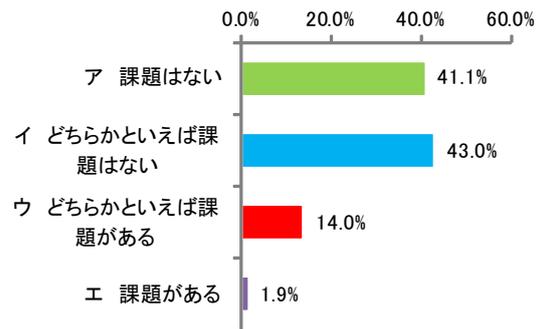
Q10 前期選抜で合格した生徒の合格後の状況について。



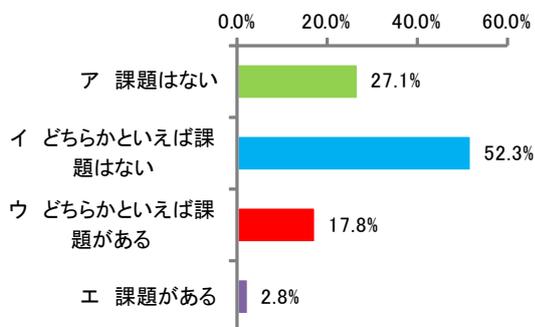
Q11 現行の一般選抜は、透明性・客観性が確保されているか。



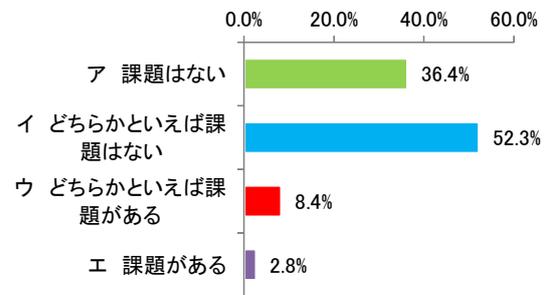
Q12 現行の一般選抜の「出願書類(様式)」や「出願手続き」について。



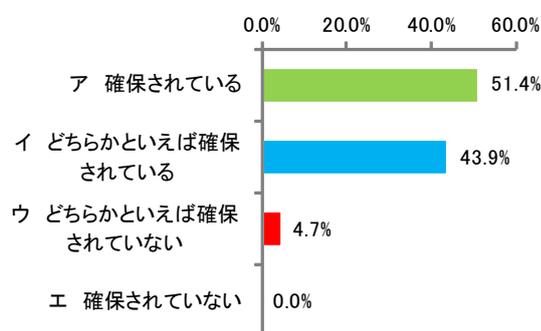
Q13 現行の一般選抜における学力検査について。



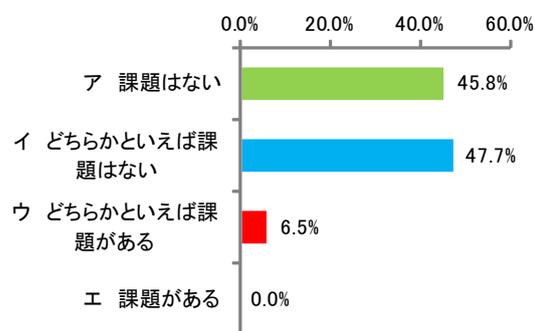
Q14 現行の一般選抜における面接について。



Q15 現行の2次募集は、透明性・客観性が確保されているか。



Q16 現行の2次募集の「出願書類(様式)」や「出願手続き」について。

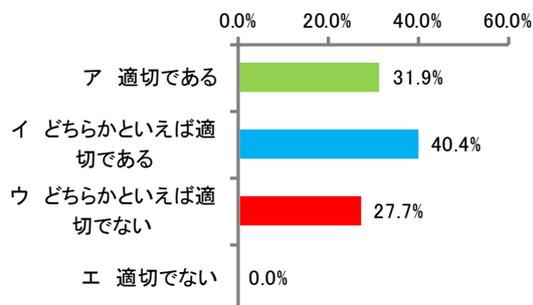


自由記述（一部抜粋）

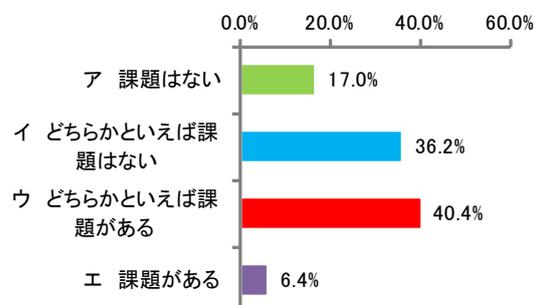
- ・前期選抜については、主に部活動で有望な生徒を集める目的のために行われていると捉えざるを得ない。（もちろん、学力やその他の特別活動等を考慮されている生徒もいるが）このような状況では、高校に入学後、授業についていけるのか、部活動以外で生徒の力を伸ばすことができるのか、懸念される場所である。
- ・入試期間の長期化による授業等への影響や入試事務の負担増という視点から、前期選抜と一般選抜の入試日程を一本化することを検討したらどうかと考える。
- ・大学入試が変わることや、キャリア教育を小中高と貫くことを進めると、もっと制度を簡単にできると考えるが如何なものか。3回の受検機会を一本化（一体化）する工夫ができると思う。
- ・1回だけの入試であった世代からすると、3度の選択機会がある今の制度はうらやましくもあるが、生徒の学習意欲の持続や定着の面から考えると、一般選抜と2次募集でいいと思っている。しかし、高校の特色や独自性等の確保、社会を担う生徒の育成等の面から見ると、前期選抜もその手段となる制度であり、一概にどのような制度がベストかは判断できない。今後多方面の意見や考えを勘案して、よりベターな入試制度を提案・実施していただけるものと確信している。
- ・特に前期選抜の在り方については課題があると思う。継続するとすれば、例えば、志願条件における特別活動等による募集定員と学力面からの募集定員の割合（定員）を明確にするなど、より透明性・客観性の確保につながる改善が必要ではないか。

(3) 高等学校へのアンケート結果について

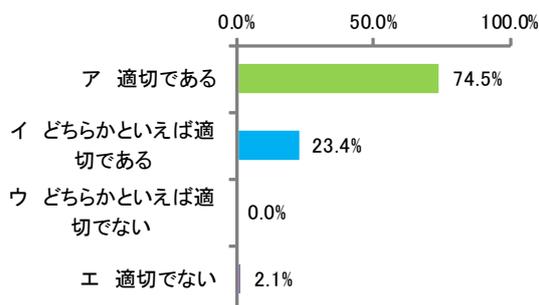
Q1 現行の高等学校入学者選抜制度(前期選抜・一般選抜・2次募集)の検査実施日の設定は、適切であるか。



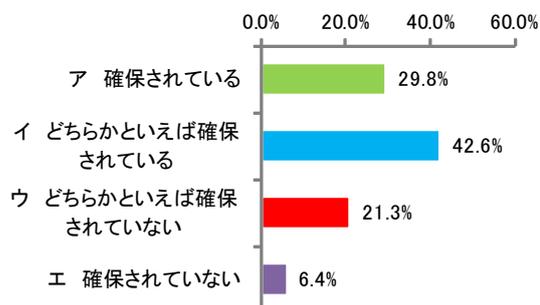
Q2 高等学校入学者選抜に係る業務全般について。



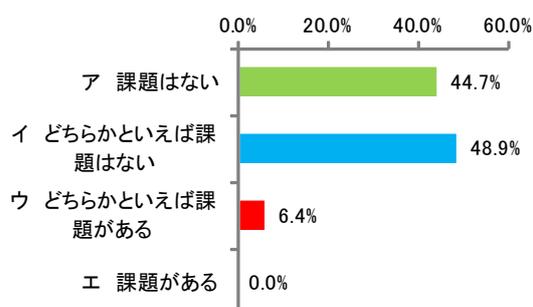
Q3 前期選抜の募集人員は、募集定員の10%~30%の範囲で各高校が定めていることについて。



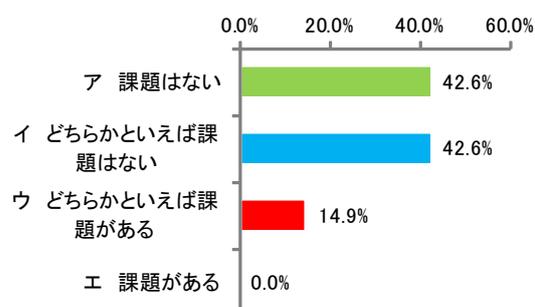
Q4 現行の前期選抜は、透明性・客観性が確保されているか。



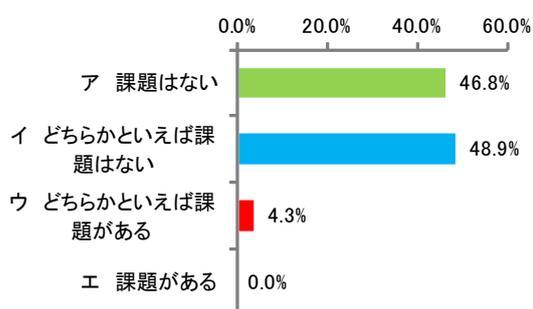
Q5 現行の前期選抜の「出願書類(様式)」や「出願手続き」について。



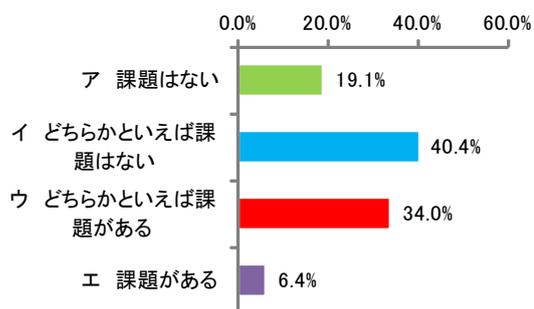
Q6 現行の前期選抜における「学力検査」又は「口頭試問」について。



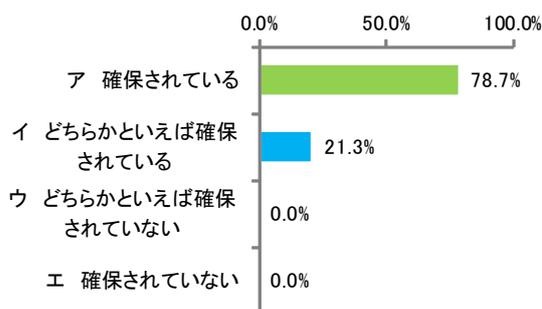
Q7 現行の前期選抜における面接について。



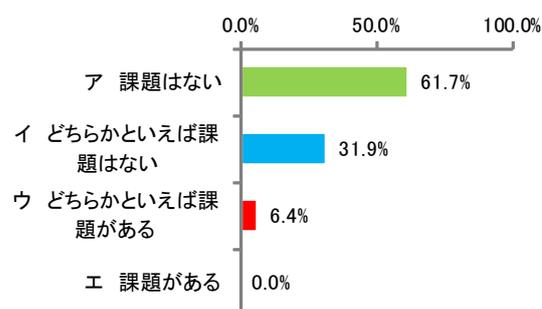
Q8 前期選抜で合格した生徒の合格後の状況について。



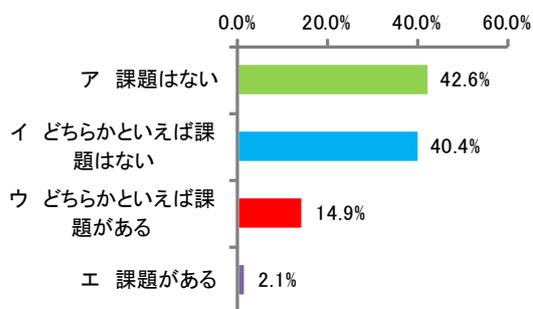
Q9 現行の一般選抜は、透明性・客観性が確保されているか。



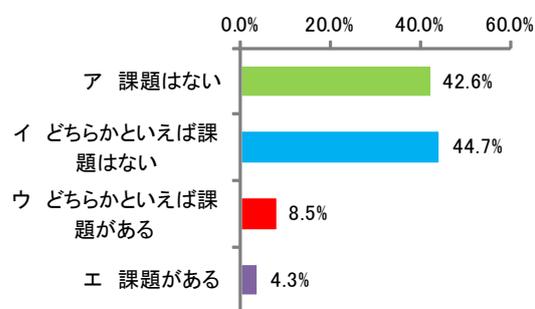
Q10 現行の一般選抜の「出願書類(様式)」や「出願手続き」について。



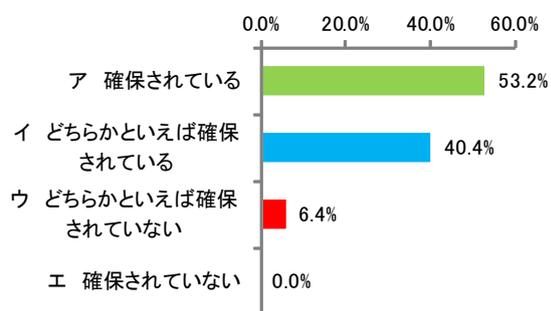
Q11 現行の一般選抜における学力検査について。



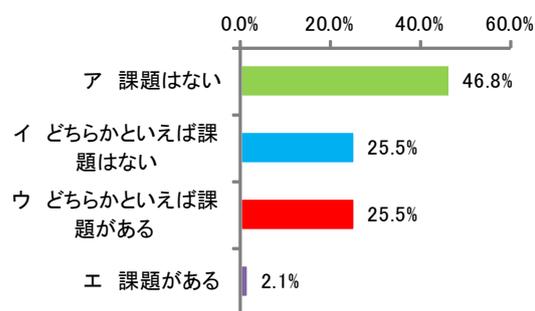
Q12 現行の一般選抜における面接について。



Q13 現行の2次募集は、透明性・客観性が確保されているか。



Q14 現行の2次募集の「出願書類(様式)」や「出願手続き」について。



自由記述（一部抜粋）

- ・ 入試期間の長期化により教育活動への影響が出ている。
- ・ 前期選抜は不要。一般選抜と2次募集の2回で良い。高校の負担軽減と中3生の学力向上が図られる。
- ・ 少子化で高校入学へ応募する中学生が減少している中、秋田市を除く多くの高校で定員割れが起きている。前期選抜、一般選抜、2次募集を含む3回の選抜を経ても定員割れが解消できない高校も少なくない。前期選抜制度が各高校にとって本当に有効な制度なのだろうか。一般選抜と2次募集の2回の選抜で十分に特色ある高校づくりが可能であると考え。今後更に定員割れが進むことが予測されると同時に年度末の厳しい日程の中、3回の選抜が本当に必要なのか、早期の検討が必要と考える。